第 51 回 日本ラグビーフットボール選手権大会
１回戦　帝京大学 vs トヨタ自動車ヴェルブリッツ(*1)　雑感

翌日の新聞を見ました。人の言ったことの上げ足をとるようで嫌ですが、トップリーグ打倒を堂々と公言しているのに首をかしげています。残念なことです。

トップリーグとの差が出るはずの接点の攻防を増やし、「相手の体力を削ろう」(*2)

接点を無くすことは出来ませんが少なくする工夫は出来ます。接点に至るまでの交差角度の工夫などによって力を有効に使う工夫が問題です。より激しく当たって相手の体力を削るよりも味方の体力に使い方を考えるべきです。

英文	和文
Rugby Union is a sport which involves physical contact. Any sport involving physical contact has inherent dangers. It is very important that players play the Game in accordance with the Laws of the Game and be mindful of the safety of themselves and others. It is the responsibility of players to ensure that they are physically and technically prepared in a manner which enables them to play the Game, comply with the Laws of the Game and participate in accordance with safe practices. It is the responsibility of those who coach or teach the Game to ensure that players are prepared in a manner which ensures compliance with the Laws of the Game and in accordance with safe practices.	ラグビーフットボール競技は、身体接触を伴うスポーツである。身体接触を伴うスポーツには本来危険が伴う。プレーヤーは、競技規則を遵守し、自分自身と他のプレーヤーの安全に留意することが特に重要である。 プレーヤーは、責任を持って、ラグビーフットボールをプレーできるように身体的かつ技術的に準備し、競技規則を遵守し、安全に参加できるようにしなければならない。 ラグビーフットボールの指導者は、プレーヤーが競技規則を遵守し安全にプレーできるよう責任を持って育成しなければならない。

IRB 発行　競技規則 2013　序文（抜粋）より

上記は競技規則の序文です。‘mindful of the safety of themselves and others.’に注目しましょう。mind は同じ精神というような意味に使っても spirit とは少し違って健全な精神や理性知性も含めてまろやかさがにじみ出ています。そしてそれは自分（等）自身と共に他の人々に対しても同じです。更に指導者にも責任を持たせています。

英文	和文
The contests are balanced in such a way as to reward superior skill displayed in the preceding action. For example, a team forced to kick for touch because of its inability to maintain the play, is denied the throw-in to the lineout. Similarly, the team knocking the ball on or passing the ball forward is denied the throw-in at the subsequent scrum. The advantage then must always lie with the team throwing the ball in, although, here again, it is important that these areas of play can be fairly contested.	ボールの争奪はその前のプレーにおいて示された優れたスキルに報いるようにすることでバランスが保たれる。例えば、プレーを継続する能力がないためにタッ　チにボールを蹴り出すことを強いられたチームは、ラインアウトでの投入を認められない。同様に、ボールを前に落としたり、前に投げたりしたチームは、その　後のスクラムでのボール投入が許されない。ボール投入の際、ボールを投入するチームに常に優位性があるには違いない。しかしここでも再び、これらのプレー　の中で公平なボール争奪が可能であることが重要である。

IRB 発行　競技規則 2013　ラグビー憲章（抜粋）より

上記 playing charter ではボールの争奪と継続ついて説いています。

ラグビーという素晴らしいスポーツが 3K スポーツと言われて若い人たちが離れて行くのが残念でたまりません。ラグビーは方向性としては文字通り成人男性、成人女性、少年少女がプレーして楽しめるスポーツで、そうあるべきと思います。

2014.02.23
西川　義行

*1: http://www.rugby-japan.jp/national/score/print/print8512.html

*2:2014/2/17　朝日新聞朝刊大阪版より

格上打倒へ 2 校の収穫

いかに格上を倒すか。トップリーグ上位に挑んだ 2 校のアプローチは違った。

　大学王者の帝京大は真っ向勝負を挑んだ。本来は社会人との差が出るはずの接点の攻防を増やし、「相手の体力を削ろう」（岩出監督）とした。連続攻撃から奪った後半の 2 トライは、そのたまものだった。

　早大は敵を研究し、焦点を絞った。自軍セットプレーの確保、相手エースへの圧力をテーマに掲げ、少ない好機から FB 藤田らがトライ。集中は続き、試合を最後まで壊さなかった。

　敗れても、大きい相手を倒すことを部の伝統としてきた早大は原点を見つめ直せた。打倒トップリーグを掲げる帝京大は、目標が一層明確になった。

　「これからが面白くなる」と岩出監督。近い将来の番狂わせへ、土台は築けた。（野村周平）